

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20年 5月 31日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 湧水の里 (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 山下 賀子 氏名 石松 成子
事業所側対応者	職名 代表 管理者 計画作成担当者 氏名 奥村勝利 中留江里子 西牧純子 ヒアリングを行った職員数 5名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670300732号		
法人名	有限会社 祓川養魚場		
事業所名	グループホーム 湧水の里		
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5250-8番地 (電話) 0994-43-2514		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年5月31日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】 (平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.1人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	1	要介護 2	7
要介護 3	4	要介護 4	6
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 87.1 歳	最低 74 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院	池田病院 (歯科含む)	園田クリニック
---------	-------	-------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な高隅山と湧水豊かな田園風景が広がる自然に恵まれた環境に位置したホームである。
 「明るく豊かな心と心のふれあい」を理念とし、運営者は地域のネットワーク作りを行い、入居者が地域との関係を大切に、笑顔でゆったりと暮らし続けることを目指している。
 職員は自己研鑽意欲も高く、サービスの質の向上に向けチームワークで取り組んでいる。医療面では協力医療機関と24時間受診可能な連携体制ができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 運営推進会議の中で行事等の報告にとどまっていた点については、参加者の意見も聞きながら話し合いを持ち、サービスの向上に向けた改善がされている。家族の意見の反映についても、面会時や家族会の機会の働きかけ、出された意見や要望は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 会議ではホームの活動案内の他、町内会行事の情報をもらい、入居者との交流が図られるよう話し合っている。又、市の職員と情報交換を行い地域の高齢者の状況を把握している。家族の要望に合わせ包括支援センターとも連携を図り、入居者家族の意向に沿ったサービスが提供できるよう取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 面会時に、家族の意見や要望等何でも話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。年2回の家族会で出された意見は、職員で話し合いを持ち解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し町内会行事や小学校運動会に参加している。又、町内会「棒踊り」の行事では、小中学生がホームに立ち寄り踊りを披露している。日頃より地域の方がホームに立ち寄り、一緒に花見をしたり農作業の合い間にお茶を楽しんだりと交流が見られる。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下 賀子 / 調査員 石松 成子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく豊かな心と心のふれあい」という理念は、入居者と地域の方々との、人と人とのふれ合いを大切にすることも含まれ、地域の中で楽しく心豊かに過ごしてもらいたいという思いのもとに作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は室内に掲示すると共に、毎月の職員会議で代表者が話をし、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内会行事である「8月の棒踊り」では、小中学生がホームに立ち寄り踊りを披露している。入居者も小学校の運動会に参加したり、近所の方が花見に来られたり、農作業の合間に一緒にお茶を楽しんだりと交流が見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み自己の振り返りを行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの活動内容や行事案内の他、町内会長より町内会行事の情報ももらい、入居者との交流が図られるよう話し合っている。市の職員より地域の高齢者の状況を得たり、包括支援センターと連携をとり、家族の意向を考慮しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム湧水の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回の市役所主催の勉強会と、事業所主催の年4回の経営者会議で、市の担当者と情報交換を行っている。運営推進会議以外にも、家族会に市の介護保険担当者が入り、交流連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の暮らし振りや様子を伝えたり、体調変化時は随時報告している。ホーム便りは2ヶ月に1回各ユニット毎に発行している。金銭出納帳は領収書を添付し、面会時に家族に報告してサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり面会時に声かけをして、要望や意見を出してもらおうよう働きかけている。年2回の家族会を設けたり、運営推進会議の中でも出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間の職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新入職者は写真を貼ったり、ホーム便りや面会時に家族にも紹介し、信頼関係を築くよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し伝達講習も行っている。内部研修は毎月個人でテーマを決めレポート提出し、代表者が紹介し発表形式で学習会を行っている。職員も個々のレベルアップにつながると自己研鑽意欲が高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は毎月、地域の事業者との運営会議の中で情報交換を行っている。又、地域のグループホームの研修を受け入れたり、家族会に他のグループホームの職員や入居者が参加し、食事会や足湯等外出先の良かった点の情報交換を行うなど交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と相談しながら本人の状況に合わせた説明を行っている。場の雰囲気に馴染めるようにホームの見学をしてもらっている。入居後の帰宅についても、家族と一緒に外出を試みる等個別に対応しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、ちまき作り、梅干、ラッキョウ漬け、野菜作り等出来ることは一緒に行い、支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に添った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から意向や希望を聞いたり、毎月職員会議の中で問題点を出し合い検討しながら、それぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、評価を行っている。状態変化時は協力医療機関の医師と連携をとりながら、随時見直しを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い本人の意向に添った通院の支援を行っている。又、面会後の家族を送ったり、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族が希望するかかりつけ医となり、協力医療機関も24時間受診可能で、適切な医療を受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し医療処置が必要になった場合は、病院や特養での治療を受けてもらうという方針を入居時に説明している。 状態悪化時は医師に説明してもらい方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者・管理者は入居者のプライバシー確保の重要性に留意し、「倫理綱領」を徹底して自覚を促すと共に、言葉かけや対応など具体的に実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態やその日の気分を大切に、起床時間や朝食、入浴など個々のペースに合わせ、柔軟に対応している。		

グループホーム湧水の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の米や野菜を使った料理は、新鮮で季節感があり入居者に喜ばれている。調理、配膳、下膳も得意分野を活かしながら、無理強いすることなく職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴される方や週3回を目安とした入浴をするなど楽しむことができる支援を行っている。入浴時間は希望を聞きながらゆっくりくつろいだ入浴ができるよう支援している。		
ahita					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、園芸、生け花、調理、洗濯物たたみなど役割を持ってもらったり、歌や踊りを楽しんでもらったりしている。 訪問パン屋さんでのパンの購入や、愛犬の散歩やふれ合いも楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や、庭の木陰で涼んだり、花見ができるよう支援している。月1回の外食、敷地内にあるソーメン流し店の利用やショッピング、足湯や公園へ出かける等外出する機会を多く作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず自由な暮らしができるよう支援している。 外出希望の強い方には職員が付き添って外出や散歩しながら気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災に備えて避難訓練を行っている。地域消防団の方も10名参加され一緒に行い協力体制もあり心強い。保存食も用意されている。		

グループホーム湧水の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分量を把握すると共に、毎月体重測定を行い栄養状態を把握している。入居者の状況によっては、協力医療機関の栄養士にアドバイスをもらっている。バランスの良い食事がとれるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺は緑と季節の花に囲まれ、玄関や居間には花が飾られている。リビングの横の畳部屋にはソファやTVが置かれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や椅子、家族の写真、観葉植物等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。